
《500文字小説》箱の中の男

十司 紗奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

《500文字小説》箱の中の男

【Nコード】

N4333S

【作者名】

十司 紗奈

【あらすじ】

絵を描くことで自分の無実を訴え続ける画家と、それを見守る看守の物語

「また描いているぞ、あいつ」

仲間の看守が、そう声をかけてきた。私は彼の話を聞くと、暗い気持ちになる。同情する反面、もう止めてくれ、と苛立ちを感じるのだ。

彼がここへ入所してから30年になる、という。死を宣告されているにも関わらず、彼には刑の執行命令はおりないのではないかと、と実しやかに囁かれていた。

私は、彼の独居房へと向かった。かつて名の知れた画家だったという彼は、時間を見つけては絵筆を握る。描かれているのは荒涼とした大地の中に佇む男や、暗闇の中で蹲る男の姿。どれも孤独と悲痛に満ちた世界。それなのに、絵画に全く興味を持っていない私ですら、惹きつけられる力があつた。

「……何故、描くんだ？」

一度そう訊ねたことがある。すると、彼は振り返った。その時の凄まじい目を私は今でも忘れられない。

「私が、私であることを示すためです。……誰もが諦めても、私は決して諦めません」

窓越に、キャンバスに向かう痩せた背中を目にしながらも、私は無言のままその場を離れた。私に出来ることは、彼をみつめ続けることだけなのだ。それが、どんなに苦痛であっても。

外の陽射しは暖かさに満ちているのに、建物の中の空気は、ただ肌寒かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4333s/>

《500文字小説》箱の中の男

2011年10月8日19時22分発行